

2025年 9月 浜松聖書集会のご案内

(時間: 午前10時 ~ 正午)

○ 9月 7日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)

司会: 武井 めぐみ

聖書講話: テサロニケの信徒への手紙 一 2章1~16節

「パウロ 福音宣教の真理性を示す」

水戸 潔

○ 9月 14日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)

司会: 永井 徹

聖書講話: ローマへの信徒への手紙 10~12章

「神に喜ばれる聖なる生けるいけにえとして献げなさい」

溝口 春江

○ 9月 28日 (日) 集会 (クリエート浜松 22号室)

司会: 生江 扶左子

聖書講話: マタイによる福音書 1章

「アブラハムの子、ダビデの子、イエス・キリストの系図」

武井 陽一

.....通 信.....

ヨハネの黙示録 22章14~15節

14 命の木に対する権利を与えられ、門を通って都に入れるよう、自分の衣を洗い清めるもの幸いである。

15 犬のような者、魔術を使う者、みだらなことをする者、人を殺す者、偶像を拝む者、すべて偽りを好み、また行う者は都の外にいる。

さて、そこで本節(22章15節)の「都の外にいる」者とは、21章27節の「決して都に入れない者」らのことであろうか。しかし、そうではあるまいと私は考えた。その理由を少し述べてみたい。我々はすでにヨハネが神との霊交によって天界に引き上げられ、そこで示された終末の幻や啓示の言葉を黙示文学として学び、遂に新天新地の創造と新しい聖都の降下、その都の光輝く容姿の一端を垣間見て、黙示録も終局を迎えた。しかしこれらの終末の出来事は、切迫しているが、これから起こることであった。

しかし22章は12節以下のヨハネは、パトモス島の牢獄で我に返り、天界で示された幻や啓示を反芻しているうちに、生けるキリストの御言葉が臨み、それを直ちにここに書き留めたのであろうか。そのように考えることができるのであれば、ヨハネと同時代の小アジアの七つの教会の現実問題に対する発言と見たい。先ずローマ帝国の迫害に耐えつつ、信仰の純潔を守りぬいている信徒たちに「幸いである」と祝福を与え(14節)これに反して、15節に羅列してあるような罪を犯し、悔改めることなくこの世の悪に与して偶像を拝む者らに対して、来るべき御国が徒到来しても、「都の外にいる」者になるぞ! と警告を発しているのではなかろうか。従ってこの警告は、言外にすべての不信仰な者に対する悔改めを迫る切なるキリストの愛から出た言葉として聞くことができるのではあるまいか。「あなたも救われる者となれ!」と。私は14節に主の十字架を仰いだ信徒への祝福と、15節の神に敵対する者への警告とが繰り返して対比的に書かれている意味をそのように考えてみた。キリストは神に敵対する者のためにも十字架で血を流されたのであるから…。

『復活』406号 2000年8月)

ヨハネの黙示録 2章3~5節

あなたはよく忍耐して、わたしの名のために我慢し、疲れ果てることがなかった。しかし、あなたに言うべきことがある。あなたは初めのころの愛から離れてしまった。だから、どこから落ちたかを思い出し、悔い改めて初めのころの行いに立ち戻れ。

ヨハネの黙示録 3章15、19~20節

あなたは、冷たくもなく熱くもない。むしろ、冷たいか熱いか、どちらかであってほしい。…

わたしは愛する者を皆、叱ったり、鍛えたりする。だから、熱心に努めよ。悔い改めてよ。

見よ、わたしは戸口に立って、たたいている。だれかわたしの声聞いて戸を開ける者があれば、わたしは中に入ってその者と共に食事をし、彼もまた、わたしと共に食事をするであろう。